

第7回 小中一貫校準備会議

議事録 要旨

1. 開催日時 平成27年6月24日（水）19:00～21:00

2. 開催場所 生駒北小学校多目的室

3. 参加者 小柳和喜雄（奈良教育大学教職大学院教授）
向井一（保護者代表） 早野琢雄（保護者代表）
西井清司（自治会代表） 有山喜八郎（自治会代表）
山本均（生駒北小学校長） 小中一弘（生駒北中学校長）
上谷麻子（教職員代表） 松島誠周（教職員代表）

4. 開会あいさつ

5. 参加者紹介

6. 前回以降の取組について

座長：・小中一貫の懇話会・準備会議は平成25年から進められてきた。

・前回以降の取組みについて、生駒市教育委員会から説明いただく。

事務局：・基本設計が完了し、これを基に実施設計を行っている。今後実施設計完了後に入札を行い、中学校校舎の解体、新校舎建築に入っていく予定である。

・通学路整備について、生駒北中学校東側の県道の歩道部分を整備する予定である。整備は郡山土木・市の道路担当課と連携し、行っていく予定。報告できる段階になれば報告する。また、東門付近の予定地は先月取得が完了した。

参加者：・通学路について保護者も気になっている。概要をペーパーで提出してほしい。

事務局：・そのようにしたい。

参加者：・夏の子どもたちの移動に間に合うのか。間に合わないならいつになるのか。ひかりが丘の通学路ルートについて説明願う。

事務局：・現在、郡山土木が調査・設計を行っている。これは新校舎が北中学校側に完成し、東門から入ることになった場合の歩道整備のことで、現在の小学校の方へ移ることを想定したものではない。県の工事の予算も来年度にならないと確保できないと考えられることから、実際の工事は来年度になると思う。

参加者：・宮方バイパスが今年の11月に供用開始という話が出ていると思うが、そのタイミングでは歩道はできていない状態か。

事務局：・バイパスの供用開始は今年度末と聞いている。29年4月の開校に間に合うよ

うに県も考えている。今年の11月は無理と考える。

座長：・中学校から小学校へ移動となるので、小学校の通学路は変わらない。中学生が問題。

参加者：・東門予定地の用地買収完了したと聞いたが、通学路、歩道確保について地権者と話は進んでいるのか。

・歩道の幅はどれ位で協議されているのか。どのような計画なのか。

事務局：・現在郡山土木が交渉中。歩道については水路部分の蓋かけも含めて3M程度の幅を確保したいと考えている。県の調査・設計の段階である。

参加者：・用地の確保はどうか。

事務局：・完了している。

参加者：・工事期間の中学生の通学路は学校が考えるのか。

事務局：・そう考えている。必要な情報提供は行いたい。

座長：・学校側の取組について経過報告願う。

参加者：・資料「小中一貫校準備会議資料『小中一貫校開校に向けて』」に基づいて説明【小中一貫教育カリキュラムの作成にむけて】

・9年間で育てたい子どもの姿について、小学校は『コミュニケーション力の育成』などがあるが、今後、小中教員が協働してじっくりと考えていく。

・地域の特色を活かした地域学習・キャリア教育、9年間の発達段階を見通した算数・数学、外国語・英語学習に取り組む。中学校の職員の乗り入れ授業については今までの取組として、英語教員による「英語体験学習」(6年)、体育教員によるスポーツテスト事前指導(5,6年)がある。今後、どのような形になるかは未定である。

・サイエンス授業について、中学校は先端科学技術大学院大学と連携して授業を行っている。今後、小学校もサイエンス授業について取り組みたい。

・先進校視察や先進校から講師を招聘し職員研修を行い、小中一貫教育への職員の意識を高める。

【小中一貫教育校開設に向けての小中協働による活動内容及び計画】

・年度初めに特別教室の配当、校時、チャイムなどを相談した。

・中学校の授業に支障をきたさないように学校行事の調整を行った。(運動会の春開催)

・今後、小中協働による推進協議会、部会会議を月1回定期的に行う。

【課題】

・小中一貫教育コーディネーターを組織に位置づけ、一貫教育を推進していきたい。

参加者：・資料に載せている以外にも、各学校で推進委員会をもって会議に参加している。9月からの移転してからの話が中心。7月17日中学校で校舎お別れ式を

行う。校舎などのガラスにメッセージを残す予定。

座長：・中学校が夏に移動。それ以降の移動について確認する。

事務局：・今年の夏休みに中学が小学校に移動し、29年3月校舎完成後、4月から新校舎での授業が開始となる。中学生は1年半小学校で生活することになる。

座長：・平成29年3月に引越し。4月開校を確認。

事務局：・30年は認定こども園の開園となる。

参加者：・地域が手伝いできるタイミングがあればいい。

事務局：・保護者や地域の方も校舎がなくなっていくことに関心を持ってもらえる。引越し後、解体が始まる10月頃までに地域や保護者でイベント計画などあれば校長と相談してほしい。

参加者：・育友会でもお別れ会をしたい。地域のバザーに参加してもらい、さよならイベントができればと思っている。

参加者：・引っ越したら校舎が使えないのかと思っていたが、10月まで使えることがわかったので、使いたいことがあればいい。

参加者：・来年度は小学校でもお別れ会を考えているところ。また協力願いたい。

座長：・保護者・自治会の取組を報告願う。

参加者：・28年度から、小中の育友会をひとつにする。保護者の意見をとるため、育友会と保護者の間に「iどばた会議」という中間の組織を設けた。りそな銀行から提案いただき、小中学校、小中学校育友会で被災地植樹プロジェクトに現在参加している。苗木を育て東北に帰す。防災を忘れないように2、3本返してもらおうので植樹したい。

・北小学校中庭にある桜を校舎の解体にともない残していくサクラプロジェクトを考えている。挿し木、接木を行い、みんなで苗木を作っていきたいと考えている。

参加者：・育友会一本化にむけて動いている。中学校はサクラプロジェクトには参加できていないが今後参加していく。校舎解体までに何かしらのイベントを行いたい。

座長：・続いて、自治会から報告願う。

参加者：・具体化が進むことによって通学路の条件がよくなってきたと感じている。

・県の方での詳細設計をできた段階でこの説明会に同席していただきたい。

・高山大橋にも大きな桜の木があったが、サクラプロジェクトを学内だけでなく沿道に広げてほしい。

参加者：・移行期の通学について気になる。自転車通学の子が富雄川を渡らないといけなくなるが、川崎橋は交通量が多くよくない。出店橋の信号ははやい、せまい。八幡宮は見通しが悪い。

参加者：・出店橋を渡る方が、北側を渡るよりも安全と考えている。

7. 高山スーパースクールゾーン構想について

座長：・報告願う。

事務局：・高山認定こども園と給食センターを生駒北小学校の跡地に設置する。30年4月に高山認定こども園（仮称）開園予定。

- ・運営主体は社会福祉法人北倭保育園にお願いしている。公立の高山幼稚園と地元の保育園を統合し、認定こども園として整備し、就学前教育・保育施設の一層の整備充実を図るもの。平成28年4月に高山幼稚園に入園する3歳児クラスの幼児は、5歳児にあがる30年4月に認定こども園に移行するという予定になる。そのため入園説明会が開催される本年度には認定こども園への移行について保護者へのお知らせをする必要があるということから、今回高山幼稚園園区の皆さんにお知らせする。
- ・次に学校給食センターの方針は資料参照。本年度中に懇話会をたちあげ、検討協議を進めていきたい。31年度中の開所にむけて取組を進める。
- ・7500食程度の給食を調理できる施設を考えている。アレルギー対応の施設で特に北小中一貫校は温かい給食を提供できる。

参加者：・面積はどれくらいか。場所はどこか。

事務局：・まだ詳細は未定。

参加者：・校長の話にさかのぼるが、コーディネーターにあたる先生はどんな人になるのか座長教えていただきたい。

座長：・先進校では、現在勤めている先生の中から小中1人ずつ出てくることが多い。今回は場所が一緒になるので1人というのも前例がある。

参加者：・北小中学校では人数が少なく、忙しくされているので、外から来てもらうことはできないか。

座長：・基本的に、その学校のことを知っている教員がするもの。

参加者：・負担が大きいのであるなら、コーディネートできる環境を整えてほしい。

事務局：・必要な措置は考えて行く。大変だと思うがよろしく願います。

座長：・これまでを整理すると、

- ・8月引越し。同一敷地内で9月から生活していく。
- ・実際始まってから29年の開校を目指しての取り組む計画を考えていく。
- ・この時期しかできないことを考えていく。
- ・3本たてになっているが、ほかに意見はないか。

8. 今後の予定

座長：・学校の通称名の募集について、吉村課長から説明願う。

事務局：・学校の名称は基本的には設置者である生駒市教育委員会が決定する。

- ・先日学校教育法の一部改正に伴い、新たに義務教育学校という校種ができたが、それとは別に小学校、中学校は存在している。
- ・生駒市の北地区での小中一貫校については、資料にもあるように、小学校、中学校はそのまま、9年間を見通した教育課程の基で実施するといった従来からある小中一貫校として28年度より小中一貫教育を推進していくことを確認する。
- ・今後、義務教育学校の詳細がわかった時点で、小中一貫校としてどちらの方がいいのかということを検討することもあるだろうが、当初の予定通り法的な位置づけは小学校、中学校とする。
- ・学校名については、通称名を設定することが適切であると考えられる。全国147校ある施設一体型小中一貫校でも同様のことが行われてる。

(資料「北小中学校における小中一貫教育実施に向けての検討事項について」2の(3)について説明)

- ・広く意見を聞き、検討していきたい。については新しく通称名を北小中学校の児童生徒、保護者、地域の方から募集し、集計したものを基にして次回9月予定の準備会議で内容について検討することを考えていきたい。

(資料「北小中学校における小中一貫教育実施に向けての検討事項について」2の(1)(2)と別紙資料について説明)

座長：・これからの準備会議で考えていかないといけないことだが、通称名の件、何か質問等はあるか。

事務局：・(資料2の(4)について)。28年12月を、27年12月に、通称名使用は28年4月に訂正願う。

参加者：・数を参考にするのか。

事務局：・一番数の多いものに決めるというわけではないが、参考にする。

参加者：・投票にならないということを事前に伝えてほしい。

事務局：・そのとおりする。

座長：・決定についてはこの会できめるのか。(2)②に示した方法に近いのか。

事務局：・いくらかだしてもらって、ここで決定ではなく、協議し選定してもらい、最終は市教育委員会で決定する。

座長：・プロセスは3ステップである。1ステップ目が公募。2ステップはここで絞り込む。最終選考は設置者の市が決める。と理解してよいか。公募はいつか。

事務局：・9月で話し合えるようにすすめる。

参加者：・8月は夏休みなので、9月の前半か後半か決めていただけたら、7月中に公募か9月に公募か検討させていただく形になるが、どちらがよいか。

事務局：・9月に入ってから公募は遅い。

事務局：・イメージとしては、今日ここで検討し、学校では夏休みまでに話しておいてもらい新学期の9月に提出してもらおう。

- ・保護者と地域の方は夏休みの間に話を頂いて、9月頃にここに集まったときにそれぞれの立場の意見を話し合い、もって帰ってもらい、また考える。それぞれの組織で話し合ってもらえるようにする。ていねいに行っていきたい。

参加者：・集計はそれぞれで行うのか。

参加者：・いつ出すのか。

事務局：・7月上旬に依頼する。

参加者：・学校での説明はできる。今からでは地域の回覧板7月1日号には間に合わない。次の15日号には間に合うが、回覧に時間がかかり、浸透するには時間的に難しいかもしれない。

参加者：・7月15日なら間にあう。それぞれが感じる小中一貫に対する思いを書けるスペースを設けてほしい。

事務局：・様式は市で作る。小学校では1年2年にできるかなど、すべての学年ではむずかしいことも考えられるので、学校に任せる。保護者に関しては集めてほしい。

参加者：・渡すが、すべて返ってくるかは保護者しだいである。

座長：・市で様式を出し、学校は学校で、保護者と子ども。育友会は育友会で。地域は地域で。それぞれでまとめたものが9月に出てくる形になるのか。

事務局：・育友会は学校と相談。サンプル的なものは市で出す。

参加者：・育友会と児童は別か。1家庭には子ども、保護者、地域の3つとなる。

座長：・広く集めることが目的なので、募集するが、集め方はどうするのか。

参加者：・保護者は、子どもが持っていく。

座長：・3つある中で、地域は地域で。学校では、保護者用と子ども用を集めて、家用は育友会で集計。というイメージで行うことになる。

9. その他

参加者：・25年5月12日の保護者説明会で小中一貫教育に関心の高い、意欲を持った教員に来てもらいたい、とお願ひしたが、その方向で配置していただいているのか教えてほしい。

事務局：・県教委の人事方針があり、本人の希望が尊重されることから、市の事務局のような異動はできないが、小中一貫教育に必要な人材という大きなイメージで教員の配置を進めている。コーディネートの配置とともに、市教委としてバックアップしていきたい。

参加者：・エアコンをつけないといわれているが、市のPTA理事会の中で新しい学校にエアコンがないことにびっくりしていた。

- ・設置率について東京はほぼ100%。埼玉県所沢市住民投票では、3分の1に満たなかった。

- ・エアコンの設置を望む。

事務局：・費用が巨額。エアコンの設置には10億円程度必要と考えている。導入するのであれば、全ての学校に一斉に入れるが教育の基本。予算的には厳しい。

・今すぐには難しい。

参加者：・ゆくゆくは設置の可能性が全くないわけではない。すみやかに設置できるような設計を今からしておいてほしい。

事務局：・室外機が置ける場所は確保している。換気設備も投資している。

事務局：・6月議会で小中一貫校関連の概算予算を示した。事業費全体としては、約25億円の予算となる見込み。生駒市としては市民病院に次ぐ大きなプロジェクトである。力を入れている現われと理解してほしい。

参加者：・当初はいくらだったのか。

事務局：・平成24年度の提案当時は20億円程度を見込んでいた。

参加者：・通称名の公募は、無記名か記名か。自治会の配布はいつか。回収までに結構な日にちがかかる。日にちをセッティングしておいてほしい。応募用紙にはコメントを入れる欄もほしい。

事務局：・そのようにさせてもらう。

事務局：・記名でいきたい。無記名でも無効にしない。

参加者：・せっかく25億もの公費を投入していただくのであるから、魅力ある学校づくりで特認校として校区外からの通学を認める考えはあるのか。

事務局：・検討していきたい。

座長：・今回の会議では、事業の進行状況の確認、高山スーパースクールゾーン構想について報告、士気を高める意味もある通称名について検討できた。

・これは課長からもあったことだが、国も珍しい動きで、今回小中一貫の制度化のような動きが出てきたが、これまで義務教育の制度化というのはあまりなかった。平成17年から10年ほどの小中一貫の取組が展開される中で、成果を感じて国が認めてこのたび制度化に踏み切ったものである。それゆえ詳細を決めてこうしろという形のものでなく、作っている最中であり、各学校が選んだらそれを認めていくようである。設置者は自治体であることに変わらないが、ボトムアップで考えていく時代に入ってきてそれを制度化していく形が認められてきている。

・いよいよこれから中身の話が変わっていくので、しっかり考えていける準備会にしていきたい。

10. 事務連絡

11. おわりのあいさつ